



俳諧御傘

伊地知文庫
文庫20
334
4



伊地知氏書冊

無礙菴

河

二

上

あ

只一洲よの小島

あつらふ

を急

町

あ

只一洲よの二

七

ぬとわづらぬとすふあめ
わづらぬとさめりせむき

松風乃ぬ

本乃茶のぬ
川巻のぬ

ぬとすつふいぬとすむらぬの
ぬ今二能ふいぬとすすぬ
二のぬとすむらぬと
ぬとすのぬとすむらぬと
七のぬとすむらぬと
うぬとぬとすむらぬと

八月ぬ

乃立乃ぬ村ぬ
乃ぬとぬとぬとぬとぬ

乃ぬぬと乃ぬぬと乃ぬぬと乃ぬぬと
乃ぬぬとぬぬぬとぬぬぬとぬぬぬと
ぬぬぬとぬぬぬとぬぬぬとぬぬぬと
ぬぬぬとぬぬぬとぬぬぬとぬぬぬと

わづらぬ

ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

関ぬ

ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

言ふに仁乃のよりの如し
くく一也善業くく梵経の地
乃のよの観一ありてくく
善業のよのくく一の善業
くく可は地くく一の善業
宗祇のよの善業のよのくく
知く地くく一ありてくく
らん付きくく一善業のよの
くく地乃の観用ありてくく
あり人關体は水くく一あり
乃水くく一善業のよのくく
誤るり關体とくく一観用
ありありと計りてくく一観用
と善業のよの善業のよのくく
はくく一善業のよのくく
と目下記のよのありてくく
水くく一善業のよのくく
て神祇のよのくく一善業
ありありとくく一善業のよの
先とありてくく一善業のよの
善業のよの善業のよのくく
くく一善業のよのくく一の
まくく一善業のよのくく一の
二ありてくく一善業のよのくく
ありてくく一善業のよのくく
くく一善業のよのくく一の
くく一善業のよのくく一の
くく一善業のよのくく一の
くく一善業のよのくく一の
くく一善業のよのくく一の

長別ふつはあつ合点中
 ぬ人はあつらわくは詮じ
 らうくはあつらわくは智恵
 わらんらわらんらわらん
 酒露のつらふ雲霞
 水邊物難
 よう二句宛
 去るわ

七年二句乃物と成る
 新成の釣るわ難よは成

三句も入一山平の晴嵐よ
 と教よりのひくも二句も同
 かねて嵐山と前の名も
 ぬとくく三句乃あよも長
 吹もけしきもこの詞を以
 て風神よとくくくもあま
 らくはあつらわくは魚風神の白
 よあつらわくは風乃るも二句吹
 乃るまふ乃るもあつらわくは
 嵐よの風神乃酒よとくく
 とあつらわくはあつ

物乃月 只一物乃るも今
 て物乃るの月今一

連よもあつらわくはあつらわり
 物乃る乃るも今二句可
 有るまふ一物乃るも今二句
 と物と可るあつらわくは月の時
 鐘よあつらわくは乃月遊あつらわく
 と物乃るも今二句乃るも今二句
 あつらわくはあつらわくはあつらわく
 又月あつらわく

あまのつひに
月乃

良の事 新の事あり
詞をくくとも只一誰

よわうんと終のよりのく今一を
なまよふよりし終乃詞よらん
と終よふ人ふはるたれしをね
とれし終の事 終の事 肌身
るとの詞をくくとも一
終乃月のことわらわらわら
あふくまよふ終よあまらた
終乃さゆらとらるあらと終
乃月のことゆあはる事は有そ
あら終の詞をくくともゆり
月を 終乃月よ 終乃終乃詞
のく月のことゆらとらるく
あまあく終のこゆらあよ
可なり事あり終の事あり
氣まはるよ月終乃の事あり
あまよふの事ありあまの事
まや 終乃の事ありあまの事
よら終乃の事ありあまの事
てハ終乃月終乃月よらら
あまあく終の事あり

曉

只一其曉一誰一ハ曉二其
曉一物と終くくとも一

あまの事ありと終よまらるる
之白乃内とを曉をあらり
あまの事ありと終よあまの
もあまらるるも二白終の事
とら終の事ありあまの事
あまの事ありと終よあまの
終乃乃本世終乃下生る
あまの事あり

始風

只一始乃風一始乃風の

始乃風と一始乃風と

つて

始乃風

始乃風と一始乃風と

始乃風と一始乃風と

始乃風

始乃風と一始乃風と

始乃風と一始乃風と

始乃風と一始乃風と

始乃風と一始乃風と

始乃風と一始乃風と

始乃風と一始乃風と

始乃風

始乃風と一始乃風と

始乃風

始乃風と一始乃風と

始乃風と一始乃風と

始乃風と一始乃風と

始乃風と一始乃風と

始乃風と一始乃風と

釣又ふ 書乃字二句ま

さゆすあきられの

わけられい 小一度く

は二句又耐ふより不

明の字より二句書

白とゆきとまれば

別之様よわけられ

ひかよ昨釣の

今且と釣末乃

わ

今且と釣末乃

わ

乃字 乃字一

乃字一

乃字一

乃字一

乃字一

乃文字と爲く去極とくえ
きぬりのこおあく指合
海とあるう寸天中川
うとわくいもさるま
わわた空乃布とつひ
灘よのあくくくくみ句の門
よ入るまよせりたの事さ
転ふしとまよ乃事さ
水とよのあくくくくみ句
舟橋と流ひくも非
河内乃天海さくくく
船と水とよのあくくく
ふあるまよとくく
しとくくくも水とよの
るくくくあああ
乃の字よのあくくく
新式よのあくくく
船めされし差別と
あくくくあああ
海と二月乃のあくくく
まくくくよの二句
大とくくくのあくくく
こくくくくくくく
あくくくくくくく
の字よのあくくく
しとくくくくくく
あくくくくくくく
成丸の字よのあくくく
されし其座乃宗
しとくくくくくく

よ漢くも二百まじ但天
天皇天目さくの大よ六付
ていんちくく次天人天り
るこのさくの事とつひま
乃字よ八の字二百こ

わく流るる
を踏あすたる女踏あすの
云夏根元 年中の事あまよ
くり

暑 洲よ二座二句あり暑
日 すと数よつひくも二句の
肉と数ふし約阿ふも成し
暑よあめくのかのうま二
句通し

釣日山

釣日山 天家よまじくく
句神よ一なる

水もこ極地こ難と
非も通 難ふこ非極地

極よある冬極下崩るとの
洞をいさこ極地水も二

句は草の極地も極るわ
水もこ極地も

水もこ極地も
もあつて句も

神よ一なる

鴨 ちあつて句も

極よ一なる極地よ二句あり
極地よ二句あり

わく田爲 草鴨 句通人

事の秘傳あり連よるう
よひのくく書乃字一應よ
三句あり遊よいろと教よ
讀く今二句よ入一遊於と
習く心二句乃物しよか
乃書一應を別乃更なりを
連よ尸路に離ふよ四乃かよ
面よ入一應今二句あり入
つ遊字乃字と極物よ用い
句よる書白の亦よい可
有

^{あつこま}温日与と深 日乃あつこ
こいこく

可為美二句し新式也

^{あは}喜小縁 二句よこ

^{あは}喜母音 字二句よこ

但二句よまよ妙あり一は洞
乃通乃大縁ありあり
ふあり縁字はよありあり
をのく二句よありあり
あつこあり

^{あは}洪海 山海家海の約あり
乃海文字連よふ句

るれい離よ二句よこ
字よ二句よこし又通乃字
もりありありありあり中
ありありありありあり
終よありありありありあり
ありありありありありあり
ありありありありありあり

流病よい不平は病田を家崎
わがも思ららの心平一徳海
と云君のあつりそらららら
詞をこりり好り

わんらら徳海徳山 國名
名々

まも山敷よらら一徳非あり

四

あ〜海〜ま 乃今東に不

徳とあつり徳海徳山
あ〜くそらら二句始るり
丸おとく〜あ〜海〜
まも山敷徳と書くと徳のま
む徳〜ま〜徳と書くと徳
まのま〜徳と書くと徳

筆のま〜徳と書くと徳
そらら人まらまのらあ
徳うま〜徳と書くと徳

あ〜海〜ま〜あ〜海〜
ま〜ま〜徳と書くと徳
り〜あ〜徳と書くと徳
ま〜ま〜徳と書くと徳

あ〜海〜ま〜あ〜海〜
ま〜ま〜徳と書くと徳
ま〜ま〜徳と書くと徳

あ〜海〜ま〜あ〜海〜
ま〜ま〜徳と書くと徳
ま〜ま〜徳と書くと徳

あ〜海〜ま〜あ〜海〜
ま〜ま〜徳と書くと徳
ま〜ま〜徳と書くと徳

晴をせんしとて洞るりあられい
あの子のらちをさくきき
丸を背拍乃今果よんと合
けきしむるもくもくか
くすくすおとらるるひあは
そのまの道理わしと二句
極くゆるくしる理らつとい
可極

あつしち 東屋田海とさく
東海よ 又まいらる結しと色

連しとも離しともわたり極るも
あつしちのま 東屋とくしとくも
連し二句乃門よとゆとみえ
あつしちよあつしちとさく
云と色今一入とく之句あつし
あつしち又あつしちよ今一わたり

馬とて下場離よ 東國買東
坂東よと教しとてあつしち
しもひしとともわとさく
ひしちの又字教しとてさく
あつしちあつしちとてあつしち
ひしちとて 讀むる合句
あつしちあつしちとてあつしち
ひしちとてさくしとてあつしち
不才者ひしちとてさくしとて
久るふとらるる離のまつしち
屋うとて又東たき 東より東
豊ふとてあつしちとて二句
あつしちあつしちとてあつしち
あつしちあつしちとてあつしち
あつしちあつしちとてあつしち
あつしちあつしちとてあつしち

あゆむくさるのあらんわく
りよ東の鶴のあらん人
乃耳目よさく行るゆ事い
其こりくくくく對解は
他福谷よあくくくくくく
汁湯くくくくく

あゆまよ

紙海海はね牙
よ少紙と塩介

若況くも二白きくいははきも

付くくくくくくく

字まの但古乃款の連よ
好と云離よ六面をまきく

品よ乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

あゆむ

只一葉なるくくく一葉

わくくくくくくくくくく

わくくくくくくくくくく

網代

冬まあ通く生類よ
少紙をま塩網代く

わくくくくくくくくくく

わくくくくくくくくくく

わくくくくくくくくくく

わくくくくくくくくくく

わくくくくくくくくくく

わくくくくくくくくくく

わくくくくくくくくくく

わくくくくくくくくくく

わくくくくくくくくくく

わくくくくくくくくくく

綱成乃麻居乃二句し

明石

明石の石乃麻居乃二句し

字乃二句し

字乃二句し

字乃二句し

字乃二句し

字乃二句し

字乃二句し

字乃二句し

字乃二句し

字乃二句し

字乃二句し

字乃二句し

字乃二句し

字乃二句し

字乃二句し

字乃二句し

字乃二句し

字乃二句し

字乃二句し

字乃二句し

字乃二句し

字乃二句し

字乃二句し

字乃二句し

字乃二句し

字乃二句し

字乃二句し

字乃二句し

字乃二句し

字乃二句し

字乃二句し

字乃二句し

秋衣

秋衣 秋の具るら
朗詠乃詩よ衣

由流とありも成るうと

乃きらもセク乃まし

解

多に細涼介の風神と

よはれ符合たりとれも細涼

乃風をくは同きふ成に解と

衣のまよ物よりく風神

種とよみせは解と又徳を

とましく大のれやせの風と回

きさくす風も又きさく

衣乃物よありは可種と

又徳をまもるありも

人知もれは衣の系種と

衣乃物

衣乃物

衣乃物

衣乃物

衣乃物

衣乃物

衣乃物

衣乃物

衣乃物

衣乃物

衣乃物

衣乃物

衣乃物

衣乃物

衣乃物

衣乃物

衣乃物

衣乃物

わうき銀世行 ねのまの扇
山彩堂の紙の留りのわりの
うのわりのと 蝙蝠乃羽とほと
ぬり物なりの扇乃名の両ら
生類よあゝ次乃去 蝙蝠
とまをわりのい名の扇あ
なう次 ぬんぬくこゝと整
まわりの物とくこゝとわりの
乃扇あろく一 班女う国は解
あゝの留園こゝはよゝの扇
り一 園行ときゝぬ扇二
あり在園扇とゝ又あゝ
園扇とゝうくゝうらん又
わろこゝとわろし 一とゝ二
乃扇と扇とゝの乃物とわ
扇と園復本行の成なる
形なきゝぬとゝゝも扇

之乃外は園二あまゝとゆと扇
今一園とゝなし納涼をり風
神よきゝゝ次物こゝとれん
物と世玉と解あゝとを園不
ま行乃字物の字付向物と
園扇と整なまゝ向ち物とゝ
あゝのゝ

物さし 物さしよ外と
物さし 物さしよ外と
物さし 物さしよ外と
物さし 物さしよ外と
物さし 物さしよ外と
物さし 物さしよ外と
物さし 物さしよ外と
物さし 物さしよ外と
物さし 物さしよ外と
物さし 物さしよ外と

物さし 物さしよ外と
物さし 物さしよ外と
物さし 物さしよ外と
物さし 物さしよ外と
物さし 物さしよ外と
物さし 物さしよ外と
物さし 物さしよ外と
物さし 物さしよ外と
物さし 物さしよ外と
物さし 物さしよ外と

おもひ返りしるりまじり
雪もふりて花をなれしもつり
さよふのいづれ物もなれし
あはれはつらきものもつり
春も物もなれしものもつり
同じ事しるすものもつり
いづれもなれしものもつり

浅芽 のこり 二つなりとも物もつり

ちりさ二粒ありし一葉芽の一
い子種とらるる芽乃字と
くはしるし子種しるす
もちこしよ二乃のありし子種
とくはしるし子種しるす
ちりさあくとよめあはれしるす
かへ梅のちりさよとくは物も
芽もや雪ふあはれし一葉芽を
とくはしるし一葉芽を
物もよありしるすも物もつり
一葉芽とらるる物もつり
ちりさあくとよめあはれしるす
月あはれしるす一葉芽乃葉
とくはしるし一葉芽を
ちりさあくとよめあはれしるす
芽のちりさ一葉芽可成
ちりさあくとよめあはれしるす
ちりさあくとよめあはれしるす
ちりさあくとよめあはれしるす

とくくしく今一向のうへ
舟の極極極を返し後より法
湯神極く人よ起す守ふたり
い死まし極極かりけりふと極
舟の字極くよひ久く極よ
一ひのわんくし極或は極極極
るまよか極よひわく極極極
よまひのうらふまよひ極極
い空の極極

極小 物乃字もろろ極極
つても極式よ不極極

乃りーのれそ二句極極
あふふ良のまひ回あわいたの
つかよこら極極極極
めらろ乃まわも可極極
ふぬ極極極極極極極極
ふつ月極一回極極よ死乃字
きくくぬよ極極の字不極極
乃まふあ極極極極極極極
ふつ時七一切の極極極極極
てつひ極極極極極極極極
向くのうま若るれそ二句極
もいむるわい極極極極

海士小舟泊瀬山 舟乃字より
けく水色也

小可極極極極式あひとれた海士
小艇くらり乃月と極極極極
色よ極極

東極 舟後極極極極

湯

日のあつかりたる湯の可為

まろくね式にぬいものを
ふち只あつかりたる湯の可為

らりる難くとんをまろく
ぬいあつかりたる湯の可為

るへくまよぬいりものを
生理成ゆゆし綿食人のこと

へ飲ゆらひゆらつたあつかり
あつかりとつたあつかり

をまろくぬいりものを
新式よ日のあつかりとあつかり

あつかりぬいりものを
あつかりぬいりものを

あつかりぬいりものを
あつかりぬいりものを

あつかりぬいりものを
あつかりぬいりものを

あつかりぬいりものを
あつかりぬいりものを

あつかりぬいりものを
あつかりぬいりものを

あつかりぬいりものを
あつかりぬいりものを

あつかりぬいりものを
あつかりぬいりものを

あつかりぬいりものを
あつかりぬいりものを

あつかりぬいりものを
あつかりぬいりものを

新式の定を昔のいふれと
 とりのあつて数十年おなじ
 極られたまふおぼろけと
 極もよぬ極りに成り
 ゆるさ極りしつらさの
 分あつて極し玉竹り
 具も極乃字極乃小極
 せつあつて丸極りく
 分別と極よと代の極
 無理し新式の定乃く
 日よも余るるを二句極
 高暑寒涼水の洞との
 さつらぬ極しよよ極
 極よ極らるるの極寒
 涼温熱回まの極乃り
 極極乃事たるを極
 極極極極極極極極極
 云よ極あつて極も極極
 新式乃きく極一回と
 をい極わつて日乃温なり
 とも極る極と極をわ
 らつて冷しよよ極あつて
 ひやつた極も極極極
 極余るるよ暑さ極極極
 極よ極熱も極極の極
 き極極極極極極極極
 極れば道理を極極極
 極極よらるる極極極の
 極も極極よよ暑と極極
 極極この極りよおも極
 と極よ極極よあつて極
 極よ極と極極極極極

くもて 同きよは 約連 涼よ 暑
ち 青衣 衣乃 何と 壁の 裏より
白敷よ 登也 小娘 亦乃 歌なり
但可 依る 終 々 こと 入り たり
し 付く けり 何れ 何れ 何れ 何れ
涼よ 冷い ぬる ぬる ぬる ぬる
さ 海よ 文よ 登き 為り び 亦ち
涼よ ことの 深成く 別乃 氣よ
なり ぬれ ぬれ ぬれ ぬれ ぬれ
さ 入り ぬれ ぬれ ぬれ ぬれ ぬれ
亦 同乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
よ ぬれ ぬれ ぬれ ぬれ ぬれ

わろ

何れ 人 備 介 あり
無き 何れ 小 あり あり

非人 備 介 あり 人 備
あり 一 月 を あり 一 人 備
小 あり 寸 花 を 友 月 を
友 回 介 元 乃 あり 一 月 の 友
流 介 備 介 人 備 元 乃 友 月
乃 友 介 元 乃 元 月 之 の 所 の
友 介 元 人 備 介 あり 一 月
乃 の 友 二 句 あり

秋乃回

秋乃 中よ 秋乃 回あり

くもて 同きよは 約連 涼よ 暑
ち 青衣 衣乃 何と 壁の 裏より
白敷よ 登也 小娘 亦乃 歌なり
但可 依る 終 々 こと 入り たり
し 付く けり 何れ 何れ 何れ 何れ
涼よ 冷い ぬる ぬる ぬる ぬる
さ 海よ 文よ 登き 為り び 亦ち
涼よ ことの 深成く 別乃 氣よ
なり ぬれ ぬれ ぬれ ぬれ ぬれ
さ 入り ぬれ ぬれ ぬれ ぬれ ぬれ
亦 同乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
よ ぬれ ぬれ ぬれ ぬれ ぬれ

わろし可し極くともさび文書
乃四半を逐へありと見くしり
新式めいを回ハ雜个なり極乃
回しありし事極乃まにかり
及兼あると面と結いひの
極乃よありし可しとましこれ
も兼と長る中ありハ極乃
と云ふ事之極乃回しあり
まし兼乃ありし入事とま
之極乃回しひふふハ極乃回
と云ふは乃兼を結入くも
極乃よありし可しとまし
ありし可しと見くしり

わろし可し
乃月日 乃月日月日

目乃乃日と乃乃の極乃あり
とまし 乃附日と云ふ新式
わろし可し 乃附乃字と云ふ
ふありし月よありし乃乃日
乃乃日と云ふ極乃ありし世中
人極と云ふし可し極乃あり
月ふし極乃ありし乃乃
乃ふありし可し極乃ありし
とまし可しと云ふ極乃ありし
あり建極乃ありし月日より
極乃と云ふ文よありし附乃
字と云ふ事ハ極乃ハ乃兼集
よありし可し乃乃ありし可し
白極乃ありし可し乃乃ありし
字よありし可し乃乃ありし
乃月日と云ふ乃日れあり

ひるいふ月乃残るらとりふ
まはよらりく船月日さ
ひの思ふく船月日さ
月日の二並く船月日さ
事くく月日さ
船月日さ
中も日乃さ
おの船月日さ
かろく船月日さ
況し船いさ

秋と船 月日さ

萬葉 船月日さ
おの船月日さ

乃まら船月日さ
乃まら船月日さ
乃まら船月日さ
乃まら船月日さ

わら玉丸年 月日さ

天船の操船 船月日さ

船月日さ
船月日さ
船月日さ
船月日さ

天海乃あし船 船月日さ

船月日さ
船月日さ
船月日さ
船月日さ

古名夫乃字乃きくしひ
かむらあは海と名よは流句
わくし夫乃字よは不流流
と云字より名揚へふたわ名宗
乃阿と流乃字よは書へくし
と乃乃海 若乃と國乃名おも
きくぬちあふの酒
い流も回あし國乃名おも名
前おも離よは二句はくき

粟津乃原

西本津の森粟津
乃里留水色なり

わく流同と粟津と計くはあ
邊次吾と勿海あ道や文同
志たれし大津もあ道次吾と
同あ流乃字海よ付きしは
乃在津奥列乃會津なり
郡の若あしく志うも海辺
よわく流もあ道よきくし
と乃乃

名邊坂

山形と関も山よわき
し山形と吾言りしは

合ふ道とあぬし道乃字に
二句きくし竹わなふあさり
よ悲徳王乃字よはしはあわく
乃わあひのうあよあ坂とも
目むれしあれえわの字より二句
まらりし合ふ道の二字よは三句
まへあさ

煉乃葉

りし他乃字よはきの葉
とらひくはぬあまの
字に二句揚るわ

秋乃涼 兼に 秋のあつさ
あし白禰

つらつら海一面あまらるる
の海魚うへ原出らるる成
のちうらわしむる魚の事なり

海士おれらるる 火は焼く
あし原繩

なまらるるつらつら海しんく文字
おころる

清 秋乃涼 兼に 二句揃ふ
あし原繩

秋乃涼はあつさなり清を
あし原繩はあつさなり清の
字と二句とあつさなり清の
字なりわが條のあつさなり清の

字なりわが條のあつさなり清の

字なりわが條のあつさなり清の

字なりわが條のあつさなり清の

字なりわが條のあつさなり清の

字なりわが條のあつさなり清の

字なりわが條のあつさなり清の

字なりわが條のあつさなり清の

字なりわが條のあつさなり清の

ふよ汗汁をんそまよせんわ
そまよよりみく物とまよどりく
せの煙を鞠ることもねりせんわ
ひあつと地のまよよまよ入れ
冬とまよをわひみいらうの
痛ふありともひらうちとまよの
—くまよとまよとまよとまよわ

ねの宮 名の御事 ねのまよ
と物く

ねりねじーくも ねと回す
よ回—

ありねれ日 村止矢 ねの宮
ねくねの宮

そまよのねの宮のねの宮
又月あま目くひ日大内よ政は
又徳用あれんねの宮
あまふくひくひ名ありね
のまよと物く

ねの宮 ねの宮
ねの宮

袖借し傘

た

八月毎一

袖乃毎一産二句

乃袖一おせり

御よの八月毎一さ月乃毎こ

りささささささささささ今一ひ

かよ袖乃毎一ささささささ

替一つひくささささささ

さおらささささささささ

さ月毎一ささささささ

て身よささささささささ

懐かささささささささ

るさささささささささ

上乃句下れ句は地りり

今も外よ梅乃ぬりふ
うら今一加くふとさうさ
會一

猪 只一梅ら一非山敷よ
猪とと一うささ猪猪つ
猪ついつり猪たま申一
ひうこの申人さ猪眼本の
子の猪さつわ猪とわいつり
猪猪 只乃名の申けり
猪一猪の猪けおつらよ
と一あささ度申の猪り一
あさそれも申けりあえさ
あさ漬よよあえさ猪と
乃内さつわ生熟り一わ

さひさよ

新式よ者ささ

さひさよさひさよさひさよ
さひさよさひさよさひさよ
わをつり一那つりささ
さひさよ二つさひさひさ
のさひささささささ
さひの猪河されさ乃かよ
ささ連よささささ
猪よいつりささささ
ささそれ連のささ
ささささ猪の河も連さ
ささささささささ
ささ猪と一あさ一又猪
さ莫閑寂あささ猪さ
ささささささささ

大葉のすもろこしとて
みよゆらん大橋とてゆと
乃橋乃屋とて可く是より
保り笑ゆなるは後頼の
方よ山陰とて屋せさるり
大橋とて可く是より人も
如くは事とて誰とてあ
るへんれ連とては終は
物とて誰とて屋とて

橋人 橋田可くは物新式
い橋人とて混物の名

とて新式の定の
とてのなるはとて物
もよ小橋とては物
さゆとてい橋人橋田と
不審るり大橋とて分
とては物とては物
二句とて事既とて新式
権馬とてとては物
とては物とては物
とては物とては物
人橋とては物とて新式
乃橋とては物とて人橋
おもは物とては物とて
ては物とては物
とては物とては物

橋田 橋田とては物
とては物とては物

橋田 橋田とては物
とては物とては物

ひらの名をわら難し極物も二百
を

極戸 まじ極物し極物あり

極朝 極乃以ありふありてま
なり極物よありて

乃後 極貝も同あり

極麻 まこをとりてありて
極物よありて難るなり

極乃 難るなり極物よありて

極子 人倫し難なりては極川
と名難よありてありて

か上 極物よありて

極川 難しありてありてありて

極井 名あり人ありてありて

極物 ありてありてありてありて

町 ありてありてありてありて

極乃 ありてありてありてありて

て極川 ありてありてありてありて

とありてありてありてありて

名ありてありてありてありて

ありてありてありてありて

終ありてありてありてありて

名ありてありてありてありて

乃ありてありてありてありて

位ありてありてありてありて

極を極しありてありてありて

まありてありてありてありて

とありてありてありてありて

新式乃昔より見よこるひて
新式乃後乃連排のさうな
屋うし丸うと葉名あ乃
字乃新乃あこり船うと云
詞乃下よらりしははく

藤乃店

極物よわくはくは
藤と切くわくは

居よ

さく枕

極物らり新ぶらり
旅りわくは

さくめ

藤よ似らりあらり
藤乃字よ三句

藤と志乃

回面と編入
新式くめこと

排うし七句まふことととも
同物と山大乃袋ゆ家

あつまつてひ三及回排是れ
かり竹とみ句まふれは排

りい三句まふまふり竹
さ竹あつとわくは竹よみふ

まへ一回云さあめ
つ登よ竹句あつてささ

善言新式よいらりまふ
るは連排志めとさく同

面と増と裁もあれささ
志のもわよ一はわつ物とさ

とゆりあつては排よは
一はわりしは志のとさ

との島のまふひ屋うし七句
まふよ又まふまふまふ

あつた排うしまふこと
一

とこの志のちを蒙は家乃るる
とらりきとらひんくくたる
まへ交映ももさくと志の
よのるいせもまへ一は二の
排りのまへもまへは二の
まへり

さういら

藤よ二句巻志の
竹よ三句ひまへり

非極物尺巻又骨節のき
けりくくの物をあへり
ぬの巻よ二句一は二の
さういらまへり今一あへり
ももさうよ二句可極まの
まへ竹よ三句ひまへり
此竹の巻よ二句ひまへり

伊豆神系

針織し巻くは非極
而里のちよ二句

まへ一説は物のまへ一説は
居よ二句まへ二説は
り形は居無云物の内一説
或同もあへり二のちよ二句
あへりまへ二句まへ一説は

催馬樂おれ名の草本

非極

相されはまへまへに
まへはまへに
まへまへに
まへまへに
まへまへに
まへまへに
まへまへに
まへまへに
まへまへに
まへまへに

馬糸より終くす一切の藤佩
乃名の草糸の極細よハわら
次糸の成く物ハ 嘗て子規木
乃流鳥生敷皆をも成ハ物
多生敷よハるハ 次同云物
難し催馬糸の仔細中ハ酒
那波津の家水色也ハるハ
次若く新式よ草糸の糸よと
し物と極細よわハるハ
倫より多る草糸よ唯つと
るよとハ仔細の細ハるハ
在糸也ハ成るハるハ
知ハ但糸よハるハ
きりハるハるハるハ
極小もハるハ生敷ハるハ
と多ハるハるハるハ
皆糸の糸ハるハるハるハ
及糸糸ハるハるハるハ
く及ハるハるハるハ
物糸ハるハるハるハ
乃糸ハるハるハるハ
大洞糸ハるハるハるハ
ハ糸糸ハるハるハるハ
糸ハるハるハるハ
糸ハるハるハるハ

佐保姫の衣

非衣敷新式
おひ裁らるハ

衣敷よわらハるハ
よとハるハるハるハ
云候と云糸よハるハ
と糸非ハるハるハ
糸ハるハるハるハ

あゝ其の深き行きても非と
 たり深のわらわしよいと
 作しゆく我のあゝも種丸
 実新なきぬよ衣敷よえんき
 らぬ物をさんそ若ふり
 きぬるまやわたり愚成んよ
 え保とぬる智恵わらん
 人ち空しく後生よ若らん
 ぶとそそひゆ道保保と
 ると保保の山形とえんきを
 西鏡とせんきあけりまゆん
 種とさけとえんそ養あくと
 え口傳ふあよまきく

よこ契

小藤の女字付白と

きつぬ紙不備

とて

連よ入白瀬よと白

うの男の字をさへもとたよ不
 塩と成りも男鹿るりこの
 字と小乃字るれまの字は
 小のまよあ〜次

磯

非水も難し磯のさ〜

白海と契よ續く〜あり
 命〜和考よあ〜もとよあり
 も海るれ〜れと〜も〜と
 わ〜人〜離よ〜も〜と白
 命〜もよ名あ〜れた白中
 字よ七白と〜〜と海
 天位海のさ〜と〜と行を
 可は去の〜と〜と鳥の〜と
 建して海よと白可は去但源

氏の字の清のまゝはふゝゝゝ
とがゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
可依る律なり

酒乃いり 八月
八月

は二句可極くかゝるゝゝ秋
の形をいふゝゝの月と
物ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
酒之乃門なり

坂二 今一君ふありとさ
非山敷名別の物され

付ゝもゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
坂山敷ゝゝゝゝゝゝゝゝ
乃去坂三乃門ゝゝゝゝ
乃去の坂ゝゝゝゝゝゝ
子辭の坂も山敷ゝゝゝ
迷懐ふありゝゝゝゝゝ
三乃内ゝゝゝの坂回ゝゝ乃
まゝと物ゝ

横乃宮 風乃文仔細の末社
なれ名ありあり

笑 一と云字連はありと
いせハ離はハ入るゝゝ

まも本草のむ乃名を尋ぐ
あり事ゝゝゝゝゝゝゝゝ
顔と花の笑ゝ門戸をひ
く那ゝの用ゝ字ハ二句
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
字笑乃字用ゝ字ハゝゝ
ありむのひゝゝゝゝゝ
戸林又ハ乃用ゝ面を
吹ひゝゝゝゝゝゝゝ

新式よいかく採花抄一
りてあふん衆河ととて何
か

又菊

又極物なりと四よ
わ

津

只一名のよ一津よハ次二名
海よハ山次と發

よ濱いもこの也又次山と
山次と河さよ一地のち
よと河の山と山次よも
みまわめよ一よハ三乃
外ととれよ山乃字次乃字
三白のよ

い山

い山乃よハ水の字
い山乃よハ水

何波や大波のさ

何波
河らり

よ水色なり

よ禮名

何波禮 二
い禮よハ水の字

二白き一海なり

よ秋海

あつあけぬ
あ

何波の河よハ水と河の字

何波

揚乃字

三月日曜新水二
白き一海なり

又よ水色一ハ只三白の
き一海なり

何波の河

何波の河なり
何波の河なり

而非入梅也塩焼汲るあは
洞を加へるあはうりし人梅
よ成る一人梅よなりしも
名あよの梅へふこ又いはく
の甲よの梅するしあはく云
白の名あよあはくはるしん
若別可也よしん人あはく
さく霞酔竹葉酔を
酒さくしん又あはくといはる
あはくしんあはくといはる
類大略二つしんあはくは
あはくはくはくはくはく
酔狂わくはくはくはくはく
よそへ今一ありあはくはく
度酒乃白あはくはくはく
い門とあはくはくはくはく

又月 いんあはくはくはくはく

月長月あはくはくはくはく
あはくはくはくはくはくはく
晨明をよあはくはくはくはく
さ月面の月をもとるあはく
あはくはくはくはくはくはく
明よまはくはくはくはくはく
あはくはくはくはくはくはく
乃月次あはくはくはくはく
あはくはくはくはくはくはく

さしるふ あはくはくはくはくはく
あはくはくはくはくはくはく
さしるはくはくはくはくはく

物しるる月り解りきり物
るけきしといふれ急調りりよ
ぬとさびりよ二句端とらあま
く空しく月り夜りの事一入
一園番家の名るれと乗
かきしはよより祿文字より
付くめ成さぬと夜とさ海
を好くよ二句端とらあまし

月のあまりり小

となきこいさ

三句よ目眼ゆえよ年口よ
まのりよ春らんよさよよ
まのりよゆり推是よあひく
行踏書とくく三句よとさ
志とく一歳事あひく付くよま
あまのりり倒わり 新式り
波はかたしとるれと古人は味
世守付来と見えけり但しと
云よ視観家乃りりりめあ
り必月よりきりりりあひく
ふも一わりゆめも年よりりり
あまのりりりりりりりりり
口乃りりりりりりりりりり
まきりりりりりりりりりり
云事よあまのりりりりりり
年小園の字と若よりりりり
次とらりりりりりりりりり
よけくあまあく風よ吹あひ
のれも可付りりりりりりり
る原屋一丸けりりりりりり
よ月よら乃字も年よりりり

乃字も通しき...
若くは...
毒業を...
目...
付...
口...
く目の...
き...
付...
目...
字...
ま...
可...
あ...
り...
不...
る...
ひ...
と...
と...
と...
し...
付...
後...
名...
寸...
を...
笑...

はい

乃於二句...
乃於二句...
乃於二句...

何とあり

乃於二句...
乃於二句...

まきのり 只一町のさかたはく
よまきのり一町をさかたはく
と又一町をさかたはく
わさささ一日と被るよも不
有さく日計も甲

昨日の種 きのの種をよ
わさささ入わり
わさささわささわささ

徳 只一徳の徳と一徳
おの徳乃句よま被る徳
わさささ字活ひまわさ
乃句よの字と活ひまわさ
徳と必被るよま被る
徳よ被る二句ま被る
の字よの字と活ひまわさ
字よの字と活ひまわさ
徳と必被るの徳と必被る
付らわささわささわささ
ときぬたわささわささ
乃句と板よわささ活ひまわさ
まぬこの字よの字と活ひまわさ
まぬよの字と活ひまわさ
てもらわささわささ

きのぬ きのぬの字と活ひまわさ
小書よの字よの字よの字
紙をよの字よの字よの字
よの字よの字よの字よの字

紙をよの字よの字よの字
よの字よの字よの字よの字
よの字よの字よの字よの字
よの字よの字よの字よの字

不^レ可^レき^レい^レん^レん^レく^レい^レの^レ人
洞^レる^レふ^レら^レわ^レむ^レの^レ曉^レの^レ文
字^レり^レ若^レ衣^レの^レよ^レ花^レの^レあ
ら^レと^レ又^レ同^レの^レよ^レあ^レら^レし^レと^レら
と^レい^レま^レい^レの^レあ^レら^レし^レの^レあ
い^レあ^レら^レし^レい^レむ^レの^レま^レあ^レく
と^レい^レい^レと^レい^レと^レあ^レら^レと^レ指^レむ^レは^レそ
の^レあ^レら^レを^レ連^レ離^レし^レ曉^レか^レん^レ
ら^レい^レと^レあ^レら^レむ^レを^レい^レあ^レら^レく
と^レい^レい^レと^レい^レと^レい^レと^レあ^レら^レむ^レ
川^レ乃^レ百^レ首^レよ^レあり^レそれ^レを^レい^レ
終^レひ^レあ^レら^レし^レ念^レ息^レあ^レら^レし
一^レ名^レあ^レら^レし^レ一^レ皮^レあ^レら^レし^レ一^レ排^レあ^レら^レし
只^レ乃^レ皆^レ二^レ名^レは^レ一^レ皮^レあ^レら^レし
一^レと^レい^レと^レい^レと^レい^レと^レあ^レら^レむ^レ
あ^レら^レむ^レた^レら^レむ^レか^レら^レむ^レも
あ^レら^レむ^レく^レす^レり^レ乃^レ皆^レい^レん^レあ^レら^レの
あ^レら^レむ^レも^レあ^レら^レむ^レよ^レあ^レら^レむ^レ又
表^レ杖^レよ^レ二^レ皮^レあ^レら^レむ^レは^レ雜^レも
即^レち^レん^レを^レい^レあ^レら^レし^レと^レい^レと^レい^レと^レあ^レら^レむ^レ
動^レ音^レの^レあ^レら^レむ^レ一^レと^レい^レと^レい^レと^レあ^レら^レむ^レ
く^レん^レと^レ時^レに^レあ^レら^レむ^レと^レい^レと^レい^レと^レあ^レら^レむ^レ
よ^レい^レの^レあ^レら^レむ^レく^レも^レ不^レ可^レき^レ

木^レある^レと
樵^レ夫^レと^レ去^レゆ^レへ^レり
木^レの^レあ^レら^レむ^レよ^レ二^レ皮^レあ^レら^レむ^レ
人^レ備^レる^レり
三^レ皮^レあ^レら^レむ^レこと
後^レり^レら^レむ^レ一^レ皮^レあ^レら^レむ^レ
木^レの^レあ^レら^レむ^レよ^レ二^レ皮^レあ^レら^レむ^レ
草^レ二^レ皮^レあ^レら^レむ^レ

木^レある^レと
三^レ皮^レあ^レら^レむ^レこと
後^レり^レら^レむ^レ一^レ皮^レあ^レら^レむ^レ
木^レの^レあ^レら^レむ^レよ^レ二^レ皮^レあ^レら^レむ^レ
草^レ二^レ皮^レあ^レら^レむ^レ
あ^レら^レむ^レく^レも^レ極
木^レの^レあ^レら^レむ^レ

木小焼木 新の字と書
加う二句去し

新よ木ありも二句去し

木よ儿帳 二句去しと云ら
辨事し儿帳

と云ふなりわ木の字と云く
ちの字子物終よりんる書

と云く文字乃終をさうわく
筆をん乃去し終字をんれし

何んさうと書しわ去なり
んしと云く計も木の字乃

んちなれなり

木の字二句去波祖

木常 左去なり

木常路 山類しありは
木常とらんりわ

山類も木常路ち木常ん
ゆ道いあ乃圓しわも終く

まくありあは山類をのり
あしそれも木常の山路を

といし木常山乃中にあり
なるれも山類を地准き

清んち あり也し清んち
ゆあり

きし 一 野鶴一ひと云し

きし 一 野鶴一ひと云し

きし 一 野鶴一ひと云し

きし 一 野鶴一ひと云し

きし 一 野鶴一ひと云し

きし 一 野鶴一ひと云し

きし 一 野鶴一ひと云し

うらまへのとらと計りて
雄子の事なり雄三の介
たうらわをいふも海
桐 枝も初葉より花も
連りてそのまゝてあり
然れども一産は二句あり懐
胎をいふこと約きとも
洲よの杉のく月よのそ
飯乃桐一とく梧桐とわを
久そ又一とく一は外
きりほがさわりて桐火
桐桐乃若木の飯もあ
す極極しむるも桐桐
をうらまへと一とく一は
の物と知れぬ一は桐つなきり
の桐門を離るるも極極よ
ハ二句ま

小糸 冬は雪の候時
日なりて免平元年はら
只一葉よまきと計り
一の絲よ野狐小狐のた
狐又野干編の 若婦
乃若とく今一とく一は
川を流るるも一は流とい
るも一は流といふも一は
流といふも一は流とい
ふ

長衣と名は 三句ま

君 人悔之悪之依りて
若るも非人悔たる

八天子の御事しつらあり
無うも形くさるるりた
ととと白もさう然と
も皆帝は事一なり慈よ
あつたしととととと
の主をさつたなりと
人倫なり友なりも客なり
ととと事ありも人倫
和漢は王乃名人倫は
すその大倫はるぬ王
王計は天下とととと
霸王の名は人倫なり
小もとととととと
あつた人あり

菊のむ

菊のむ
菊のむ
二のこも
ふなり

菊

連は一
夜衣の菊
もはらり
菊は丸
刀の菊
菊の石
菊はも
菊は今
秋なり

菊の海

海
あつた

お勢乃離

波拍 浮舟 船
お勢乃離 二句

去らぬおの回面をさうらぬ

お務呂と一

あつと又勢乃のい
海うらとあつと

御よの勢乃と二ありてく勢乃の
いさここといさこことあり

お勢の音とらふち

お勢の音の
のまづと

娘の音とけりお勢の音と
うらつとけりお勢の音と
お勢の音とけりお勢の音と
お勢の音とけりお勢の音と
お勢の音とけりお勢の音と

お勢の音とらふち

月次の月二句
お勢の音と

お勢の音とけりお勢の音と
お勢の音とけりお勢の音と
お勢の音とけりお勢の音と
お勢の音とけりお勢の音と
お勢の音とけりお勢の音と

お勢の音とらふち

お勢の音と

お勢の音とらふち

お勢の音と

お勢の音とけりお勢の音と
お勢の音とけりお勢の音と
お勢の音とけりお勢の音と
お勢の音とけりお勢の音と

と云きわ乃詞歌よハ一巻よ二
ありを取をくくくく

曲水宴 きくく 三月三日おまこ

祇園会 六月七日なり

乞巧真 きくく 七夕をまつるあそ
なり

小野祭 八月廿日なり

さくら原の駒 はは 佐治の君は
秋なり

さぬくらり はは 冬も衣敷なり
月の小袖を飾る

くくくく

世

夕暮 はは 只一巻よハりなる言と
と一巻ハ一巻ハ一巻

夕陽落葉も二句の内なり
夕暮小舟を平橋次 はは 若人目

夕暮 はは 夕暮より夕暮は同一心なり
又字別るれと二句の内なり

夕暮 はは 夕暮とり夕暮と六面を
三遍し又夕暮の海の字は

夕暮 はは 夕暮れも乃字美の字なり
不短

夕暮 はは 夕暮れも乃字美の字なり
不短

夕暮 はは 夕暮れも乃字美の字なり
不短

夕暮 はは 夕暮れも乃字美の字なり
不短

しりくうらりめありともおの
の熟るり

クア

連ふ二遊よいこあさるり
クアとくうらりめありともおの

あきこ二遊田句物も遊よいせこ
と教よ讀句お務めくくあ句
乃物もクアハ連ふもクアの字乃
裏よあきこ二遊ふハクアとクアと
ハセ句まもクアとクアと面をさるし
クアとクアとクアといわさクアとク
アと二合連よいこあさるり遊
よハ八有たわ教よは讀く二句
二句あさるりくくあ讀ゆハの字
クアの字をさるす句一教よ
讀くくも讀よらるんくも即合
一遊ハ八ありと不知らクアとクアと

せさこの字ハ皆セ句るる句と
知へ一クア字よさるん来た
くくれきとさる二句まこクアと
大さるこさるま物乃くくく
紫雲ムスサキむのさるる二句物
及こ只一クア可くまあ

クア

寸只ぬの名るれとクアの

字まら乃字よハ二句読ま
さるの字よ二句讀まハ
一但遊ハハクアあさるり
風さるくく一句わをくく
あさこ二遊あさるクアの字ハの内
よのりくくクア可くまあ
さるふ二句物釣可くまあ遊
ゆゆり物ふも二句白雨とさるハ
美海ウミ由己ユキ橋山谷り物
ふわさくくクア可くまあ

月影を連よも二の事六辨
不へ白梅を久三まへへした
そく進へ入ねるや時又町を
いさ進しもねさうゆへ

夕月歌 秋のまへあまきしも非
朝ふり月の月

夕月歌 入日の事あり
月のまふあし次

されたり月歌とねまきさうり
次へりし寸は親地なり正流
ちあ文字のまよくうしき

記

夕月 辰星と云星々の名あり
天象にあらはなりしあり

とハ難し星小ハ面と可月
と日ハ二ハ色

夕月山 名不しあし山ナ
尸の端山なり

夕月川 肥後乃名をさるる
よまのまよよる地

地を辨しし地

夕月 名もまのまよふ地
まま地よハ二句地

ありあまわしお紙うし
付くもくまのし寸あま
町かよはらるる向るし

約町かよも夕町かよも
地かまのまよのまハの
夕のまよハ三句地白地

瓢箪早しハ行をうゆ
瓢の瓢とらわし

とハ終の度ニ終回リ瓢と
簞とニ又を柄瓢少く水
とのニ簞小食物を入あり
取魚うめんといはれしや
ひどの物乃屋うよ人の如
物かた様おしわと下にて
付ちる又るれしを食めて
至魚しけ魚うらん句終よ
しわく終よと所を一尺ハ
難しゆく魚丸ひさことなる
し名乃内おくりよ柄とく
し二三まへ一々魚乃宿ハ極
物なりて終ふしむとくても
なし又のらよあれし終し

夕天ト 雲乃下ハ夕力

よハ之句終の字ハ二句終
か之終何ふも夕何ふも
きうく次や月の字よりハ物を
きくぬ

ゆふト 夕ト 終し夕何ふし

夕月ト 此の夕や字乃ハ
夕月終の終し
おろろろハ遠行しり人わ
あへし

終し夕月ト 終し夕何ふし
終し夕月ト 終し夕何ふし
終し夕月ト 終し夕何ふし

連よハ表の巻を今ゆも
一産田句の物と次排り

せつと發めよとなくもふこみ
句は人々新式よひ書きたる
穿眼^{せんがん}製^{せい}ま書と中はと書世と
況く不同あつじつと
る知やとと又屋うと排りて
正理を言まよ去付ゆりやせ
物^{もの}の書よの記乃書政の書
歌の書よの記乃書政の書
外とそあつ新式よも物
乃書ハ若別乃るのりて
海このの書よ排りハ七句云
乃書ハ排りハ排りハ排り
あ也ハ納案

富士の書連よ近年書の
書のよとと清をまよとと物
書とをまよとと排りハ排り
家通可葉のよとと知る
和あ不和情あよ万葉集と
あつあ排先をまよとと排り
あつ海ととと排りハ排り
葉のよをまよとと富士の書
とと難なり清も物書とと
及よとと排りハ排りハ排り
ゆり清は書ハ六月の書乃
目きととととと排りハ排り
ゆりよととととと排りハ排り
ね遠もとりととと排りハ排り
け道ののまよととと排りハ排り
乃法も富士の書ハ排りハ排り
ともあつととと排りハ排り
ふむと古今の序よ排りハ排り
世間と事波の批判^{いけん}とと

むきをを籠跡小せし事あり
悔しき連洲より葉のまを
不肖事あり人々や宗祇宗
長町より家士のまを雑よ
せし終しとて代赤人の甲子
乃浦のまを新古今の冬乃
部より入るまを定家く澄
の阿方葉のまを不致貞
と雅尊しとてまをわくま
定しとてわくまを雅志のまを
を不志お終ありまをわくま
と人々をわくまを平海と香
てまをわくまをのまを葉
平のまをわくまを伊勢物語
鬼もや一日よくひくまを
二葉名を死人とまをわくま
よめわくまをわくまをわくま
殊矯されしとて新古今の
長傷の部小入り終し集と
連歌のまを乃鏡とまをわ
ひまも長傷のまをわくま
の部よ入る終し終のまを
あり終しとてんや高終の
習ひ集しはあり事と
あり終し終古今の終しと
終しとて一葉のらとの日
えくまの終し終のまをわ
しと終し終のまをわくま
と人々をわくまをわくま
ありとて終し終宗祇宗を
ら終し終しとて終し終のま
わくまをわくまをわくま

みかたりあふいかよか明
らう義理あつしうらうも
ふかき愚業のなるふとこ
ろくのらう

るる小

ゆふとこれ連ふ
西をききぬ離る

七向ちこわよまわらるを代
不刺とどつたはも非あふ
ふかき離るはむくあふとく
あしうらうそのはささ
あふと外あふとあふあふ
あふと續ゆらうらう小智
らう喜捨のさあふさふらう
あふの事らうあふあふらう
あふあふとあふとあふらう
あふらうはあふとあふらう
あふらうあふあふあふらう
種々のあふあふあふあふ
あふとあふあふあふあふ
あふとあふあふあふあふ
あふとあふあふあふあふ

あふれ

ゆりたは捨物あふ
あふらうあふあふあふ

あふらうあふあふあふあふ
あふらうあふあふあふあふ

あふ間

あふのひりあふのあふ
あふらうあふあふあふ

あふらうあふあふあふあふ
あふらうあふあふあふあふ
あふらうあふあふあふあふ
あふらうあふあふあふあふ
あふらうあふあふあふあふ
あふらうあふあふあふあふ
あふらうあふあふあふあふ
あふらうあふあふあふあふ

ては清ぬまのよ空りえれ
し雲下もけも皆去しその
ぬら雲のひらと雲乃清
事も冬よあまはるま
りきさうとつこもあつ
ぬと

雲乃山

二又あり一よの雲と
あめくはり
山たり雲まわきの影こも
雲物こもて非山敷二
天竺の雲山し句解ふり
雲こゆりこも非山敷
物よい場とくも成ら
清くまら雲の山くわを
雲の雲山くわを

夏小

初二句まの霞こめ
目のさしちるも二句
かり連よハ七句まの
み句物へ一夏新なるわ
つこもつつの雲を
新ふよあ

夏と

らりりあハ大も
成し依り解しま
夏ら急ししるし
りもあし
とまの夏
怪事や夏と物よあ
し事し雲物よ
年月日時乃
あめ夏なる
あし

夏秋の秋の夏なりくく云々
との夏ちほ秋なりく句符
よ秋申し夏中間言夏秋
吾秋なりく申も秋なりく
可夏の字よいふ句符

夏の世

夏の世はあはれ
詞秋なりくあはれ

秋めく

秋よ二句秋なり
あはれ

弓小矢

弓張月年れ矢
ふい秋なりあはれ

他可も秋と秋武因の秋然
をさきくく秋のそよわせり
らと矢よ秋然さきくく
と事しあはれの小書はら張
月と云よ年の矢と云句符

秋然をさきくく秋はあはれ
物をさきくくと事しあはれ
と事の弓よ年の矢も二句
かわわをさきくく秋と云八月の
弓と年の矢との事なりく
秋よはら張月と年の矢も
秋なりくと事しあはれなり
秋なりくの字いあはれのらと
月のらと連し二句事し秋
よハニ事しと秋よ漢句今一
あはれくくこの物と事

秋の非

秋の非はあはれと事し

秋くあはれのなまの字
と二句物なり

事ハ向ふニサキニシテ
一ハ世ノ世ニシテ
世ノ世ニシテ
ありて世ニシテ
世ノ世ニシテ
ありて世ニシテ
世ノ世ニシテ
ありて世ニシテ

〇ニシテ世ニシテ
世ノ世ニシテ
ありて世ニシテ
世ノ世ニシテ
ありて世ニシテ

世ノ世ニシテ
ありて世ニシテ
世ノ世ニシテ
ありて世ニシテ
世ノ世ニシテ
ありて世ニシテ
世ノ世ニシテ
ありて世ニシテ

无礙菴



